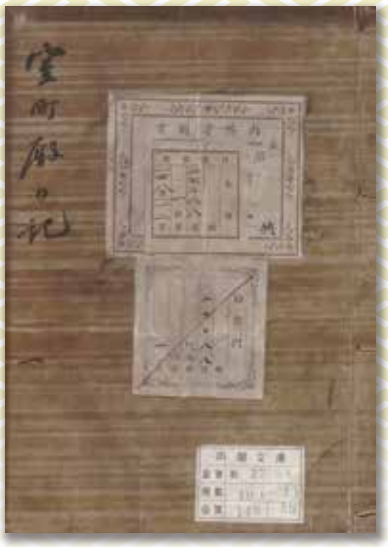
古文書から見えた
私部城
～語り継がれる歴史～

VOL.9

問い合わせ
社会教育課文化財係（TEL 893・8111）



『室町殿日記』（国立公文書館蔵）

室町殿日記

江戸時代に作られたと考えられている『室町殿日記』という物語があります。これには、織田信長が河内国を手に入れるために私部城を攻めたり、先月偽の城主として紹介した安見直政が登場したりと、内容は事実と異なるものも多いのですが、その中に「安見が後家」が主君亡き後の私部城を3年間守っていたというエピソードが記されています。

実際には、安見右近の死後、城主として私部城を守ったのは安見新七郎という人物なので、これも事実かどうか疑わしいのですが、このようなエピソードが記されたということ自体が、右近の妻が後世の人々の記憶に残る人物であったという、一つの史料として捉えることもできるのではないでしょうか。

未だ名前も分からず、謎の多い右近の妻ですが、人々には女城主として記憶されるなど、なかなか興味深い人物ですので、今後の調査で少しでも人物像が分かればと思います。

「安見が後家城を持事」の記事

後家が城と呼ばれた私部城

現在、市が所有する古文書には、右近の妻が人々に強く記憶されていたことを記すものはありません。しかし、市外にある江戸時代以降の文書には、これを記すものがあります。

河南町に残る古文書には、当時の交野郡についての説明で、「後家が城と云うハ私部村に有」と書かれているものがあり、私部城が通称として「後家が城」と呼ばれていたことが分かります。

また、明治時代に作られた加賀藩士の活躍を伝える『加賀藩史藁』には、加賀藩（現在の石川県）にいる安見氏の祖先である安見右近の寡婦が3年間城を守ったと記されています。

このように江戸時代以降の古文書に、右近の妻について記されたものが多くある一方、実際の城主でありながら、人々の記憶から薄れていった新七郎は、少しかわいそうな気もします。

私部城の様子

コラム

事情通による追記

『室町殿日記』は当時広く読まれ、写本が多く残っています。中には右近の妻に関するものがまるごと抜けているものもあり、ここは後に付け加えられたものだと考えられます。

ただ、物語の中で、信長の偵察が報告する私部城の様子は、「北は高津野（現在の郡津と思われる）という霧深い沼」「南は大手口（城の正門）で平地に続く」と、当時の私部の様子がかなり詳しく記されています。このエピソードは、交野に相当詳しい人が付け加えたのでしょう。

昭和23年航空写真（国土地理院）

広報かたの編集と発行
No.799
交野市役所企画財政部秘書広報課　〒576−8501 大阪府交野市私部1丁目1番1号
TEL 072・892・0121　FAX 072・891・5046　発行：2018年12月1日

交野市ホームページ
https://www.city.katano.osaka.jp/
かたのスイッチ
https://katanoswitch.jp/
広報アプリ「マチイロ」
http://machiiro.town/lp/osaka_katano